

京都 YWCA 日本語学習支援について

京都 YWCA にほんご教室「洛楽」担当
井上 依子

日時：2012年11月26日（月）13:00－

会場：京都 YWCA ホール

1. YWCAとは

YWCA（ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association）は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO。1855年イギリスのロンドンで始まり、今では日本を含む 120 あまりの国と地域で、約 2,500 万人の女性たちが活動。世界 YWCA のオフィスはスイスジュネーブ。

日本では 25 の地域 YWCA と 35 の中学・高等学校 YWCA が活動。日本 YWCA 事務所は東京。

京都 YWCA は 1923 年に設立。当初は女子学生や働く女性たちの英語、英文タイプ、料理、洋裁のクラスのほか、外国人女性や宣教師たちのためのホステルなど、女性の社会性、国際性を育てるプログラムを提供。

現在は以下の 4 つの事業を中心とした活動を行っています。

「子育て支援」親と子のリズム遊び教室、シュタイナーやマクロビ教室、文庫活動など

「外国人支援」多言語での電話相談や日本語教室などの

「東日本大震災被災者支援」小・中学生の子どもや親の保養プログラム、福島県新地町仮設住宅訪問、在京避難者へのプログラム招待等

「次世代育成」小・中・高校生対象の人権、平和、多文化共生教育プログラムの開発と企画
デート DV 予防のプログラム開発、子ども買春、児童ポルノについての学習会

その他：平和教育や多文化理解のための生涯教育事業、留学生や一般女性へ住居の提供などの会館事業、リサイクルセールを通じた環境活動等。

2. にほんご教室「洛楽」の成り立ち

福祉委員会主催のボランティア養成講座参加者 3 名が京都に住む外国人の方へ日本語学習支援が必要と考え、1995 年に、にほんご教室「洛楽」を立ち上げる。特に日本語学校で学習するには時間的経済的余裕のない方。また、子どもを持つ外国人研究者の配偶者等。1 人目の学習者はフィリピン人宣教師。（在住フィリピン人女性支援に携わる）

現在、講師は 17 名、年間約 40 名の学習者。月 1 回のミーティングを開催。各クラスの状況を共有し、学習支援の中で困ったこと、課題など解決するようにしている。

3. 現在のクラスの状況

- ① クラス数：14クラス（外部で3クラス 介護士研修生への個別支援等）
平日の午前中に実施していることが多い。
- ② レベル：入門2、初級4、中級3、上級2、
- ③ 学習者出身国あるいは母語：韓国、フィリピン、シリア、フランス、ルーマニア、イギリス
オーストラリア、タイ、ドイツ、ポルトガル、中国
- ④ 性別：女性8割、男性2割
- ⑤ 利用者層：日本人の配偶者、研究者・留学生の配偶者が大半。
数か月～数年に渡って学ばれる。
- ⑥ ボランティア：京都YWCAの会員もしくは会友（男性）。日本語教師養成講座修了者か日本語教育能力検定合格者、大学で日本語教育を専攻された方。
- ⑦ 利用料金：月4回／2,500円（テキスト代、保育料は別）

4. 近年の学習支援の流れ

- ① 通常は成人対象のグループレッスン。学習者、ボランティアは基本的に固定メンバー。学期制ではなく、年間通じて開催しており、いつでもレベルにあった受講希望者が来られれば受講を受け入れている。入門クラスのみ春と秋に開講。5か月（20回）で終了。
- ② 子どもへの支援（YWCA内の支援グループAPTとの協力）
2009年 中学生女子（APTの相談者の子ども）、中学生の男子の日本語学習支援を行う。通常は子ども対象のクラスは開講していないが、2名とも緊急性が高いと判断し、約1年間の支援が続いた。成人学習者とは違い、会話はできるが教科書等の質問内容が理解できない等、学校での教科の補修、強化等も必要であった。テキストもいわゆる日本語学習支援用のテキストではなく、漢字ドリルなどを使用した。
- ③ 2009年度子育て支援を視野に保育付クラスをスタート（財団法人京都市国際交流協会助成）
日本語クラスとは別の部屋で保育を行い、学習者が一時、子どもから離れて学習に専念できるようになった。
- ④ 「生活者としての外国人」のための日本語事業（文化庁委託事業2009年～2012年）
2009年度「安心して学ぶための日本語教室」
レベル重視ではなく学習者の背景と生活で出会う場面に焦点をあてる。
テーマは「健康」「日常」「子育て」「仕事」として外国籍住民全般を対象として開催。
上京消防署に協力を得て、119番の指導や消火器を使う体験などをクラスに盛り込む。
2010、2012年度「子育てのための日本語教室」
対象を外国籍住民全般から子育て中、あるいは今後、日本で子育てを予定しているお母さん、お父さんへ。
テーマは「結婚・出産」「健康・安全」「子育て・教育」
お弁当の料理実習や日本人のお母さんたちとの交流。引き続き上京消防署の協力を得て、119番の指導や消火器を使う体験も行った。
2012年度は「つどいの広場」や日赤病院等への見学も予定している。

5. 学習者の活躍

にほんご教室洛楽や文化庁の委託事業で日本語を学んだ方たちの YWCA や地域での活躍。

- ① YWCA バザーでベトナム料理や韓国料理を提供
- ② YWCA 主催プログラムでスピーカーとして日本での体験や自国の文化を紹介。
- ③ 日本語教室や韓国 YWCA のメンバーが来洛の際、通訳者として協力。
- ④ 他団体の学習会で自身の体験を紹介。
- ⑤ 地域でお母さんの達の子育て支援グループで活動。

6. 日本語学習支援の役割と課題

以 上